

〈2019 年度〉

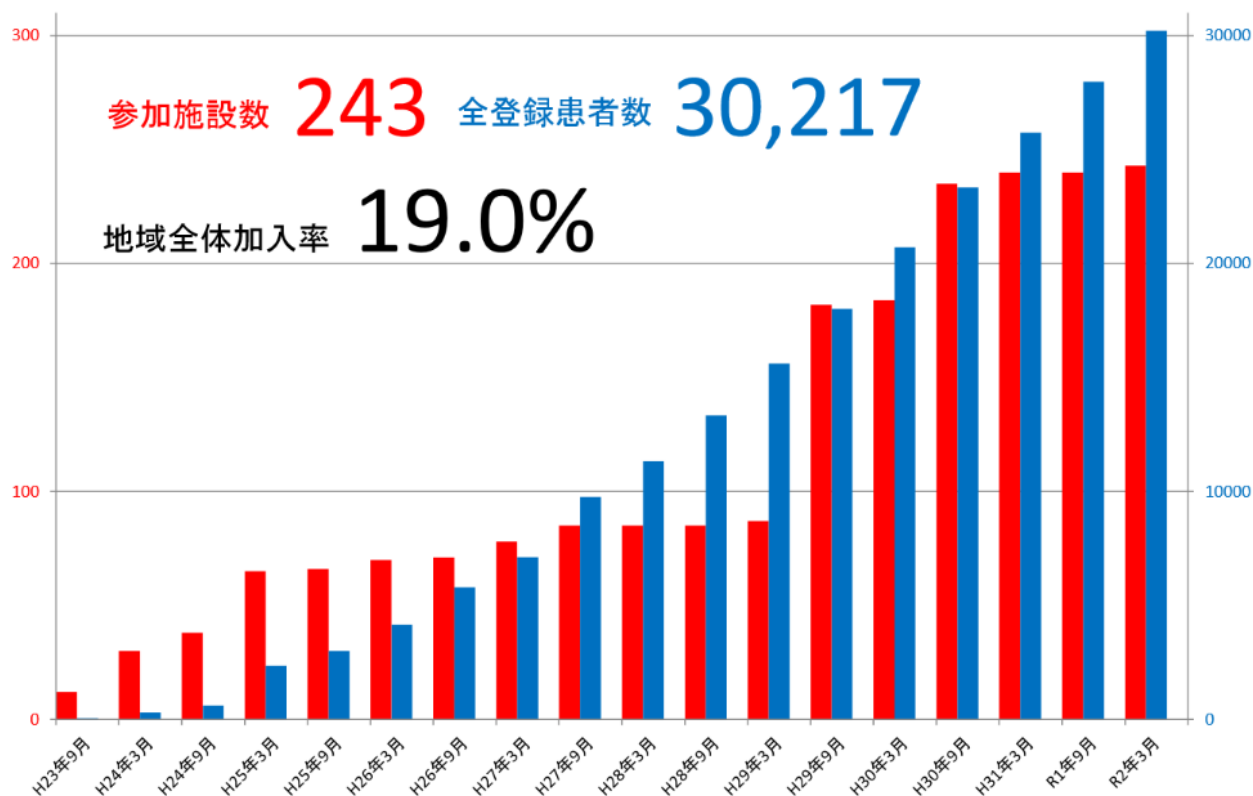
# ism-Link の検証

南信州在宅医療・介護連携推進協議会  
飯田下伊那診療情報連携システム運営小委員会

医療と介護の連携において、円滑な情報共有は重要な課題の一つとなっている。飯田下伊那診療情報連携システム（ism-Link）は、2009年度に導入され、2011年12月に情報開示6病院を中心に運用を開始した。その後、システム更新を機に、2016年4月に南信州広域連合に事務局を設置し、南信州在宅医療・介護連携推進協議会の飯田下伊那診療情報連携システム運営小委員会において運用方法等の検討を行っている。その中で、次期システム更新（2021年3月）に向け、ism-Linkが当地域の医療・介護連携における「情報インフラ」として適切なシステムであるかどうかを検討するため、定期的にism-Linkの利活用の状況、医療・介護連携における効果等について検証作業を実施している。

	項目	検証に必要な主要データ	詳細
1	基本事項	参加医療・介護関係事業者数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体の医療・介護関係事業者数把握（資源把握）</li> <li>・参加事業者数集計（全体/業種別）</li> <li>・参加率（地域全体/業種別）</li> </ul>
2	基本事項	ism-Linkに同意した住民の数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体の登録患者数</li> </ul>
3	病病連携	病院間連携での閲覧状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院間アクセス件数</li> <li>・地域連携パスでのism-Link登録患者数</li> <li>・その他転院時におけるism-Link登録患者数</li> </ul>
4	病診連携	病診間連携での閲覧状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病⇒診アクセス件数</li> <li>・診⇒病アクセス件数</li> <li>・がん地域連携パスでのism-Link登録患者数</li> </ul>
5	多職種連携	医療介護連携での閲覧状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携シート作成数に対するism-Link登録患者数</li> <li>・診病間アクセス件数</li> </ul>
6	情報共有項目	項目別閲覧状況	各項目 <sup>※1</sup> のアクセス件数 ※1 画像・検査・注射・処方・レポート・ファイル・ノート
7	利用者の意見	関係職種向けアンケート調査	利活用における課題を洗い出し、改善に向けた対策を講じるための材料とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度は医師・訪問看護師を対象とする。</li> <li>・2017年度以降は、関係する多職種を対象とする。</li> </ul>
8	診療報酬算定	算定件数	地域全体の算定件数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・画像・検査情報提供加算 算定件数（200点/30点）</li> <li>・電子的診療情報評価料 算定件数（30点）</li> </ul>

## [ism-Link] 登録患者数・参加施設数の推移



施設	地域施設数	参加施設数	参加率
病院	10	10	100%
診療所	110	68	62%
歯科診療所	83	24	29%
調剤薬局	63	59	94%
訪問看護ステーション	13	13	100%
介護関係事業所	121	69	57%
合計	400	243	61%

## 検証項目 3～6

### (1) アクセス数の年次推移

図 1 施設別アクセス数の年次推移

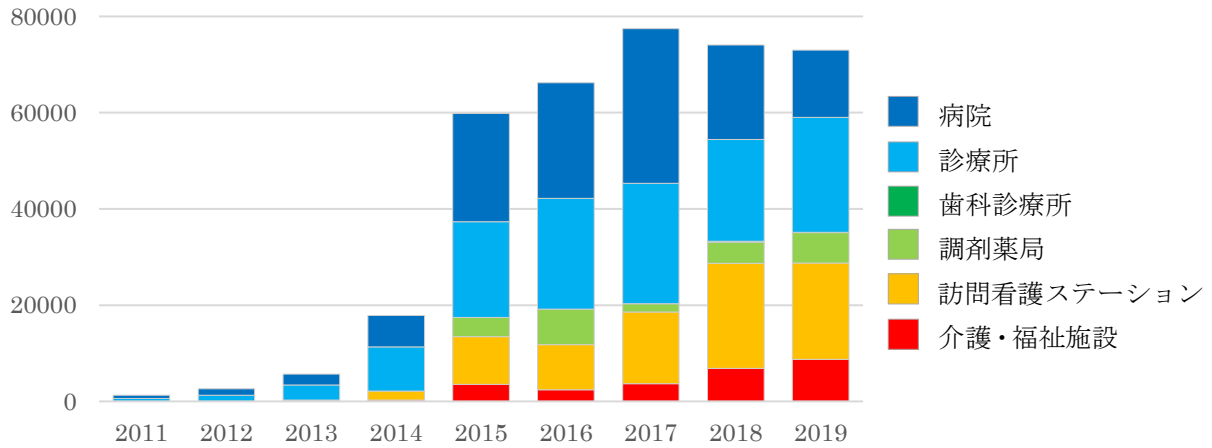


図 2 職種別アクセス数の年次推移

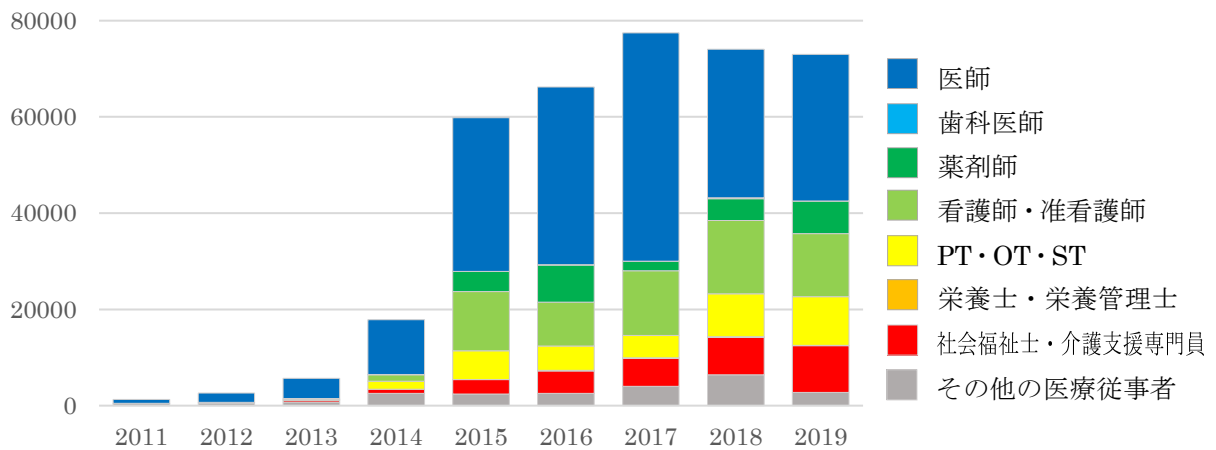
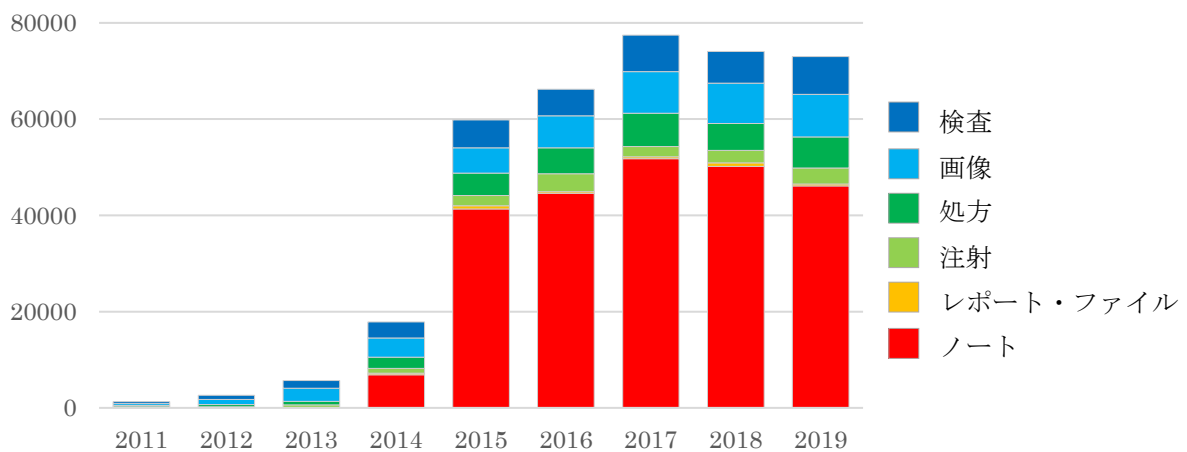


図 3 項目別アクセス数の年次推移



(2) 施設別のアクセス状況

図4 病院の参照先・参照項目

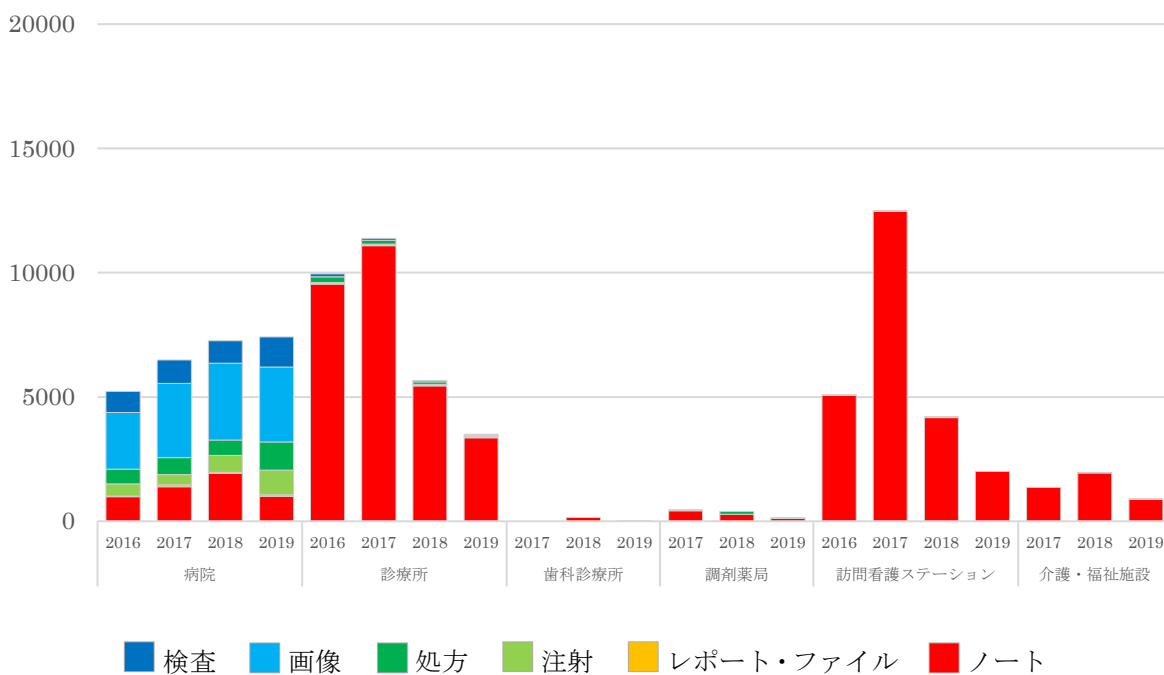


図5 診療所の参照先・参照項目

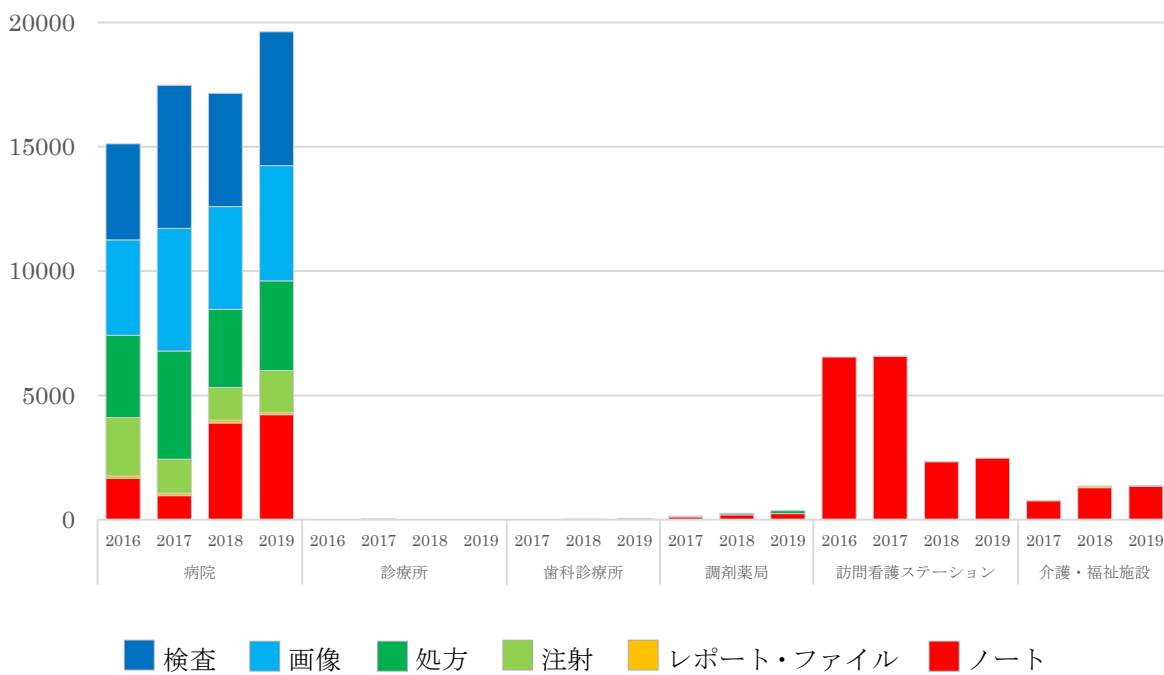


図 6 歯科診療所の参照先・参照項目

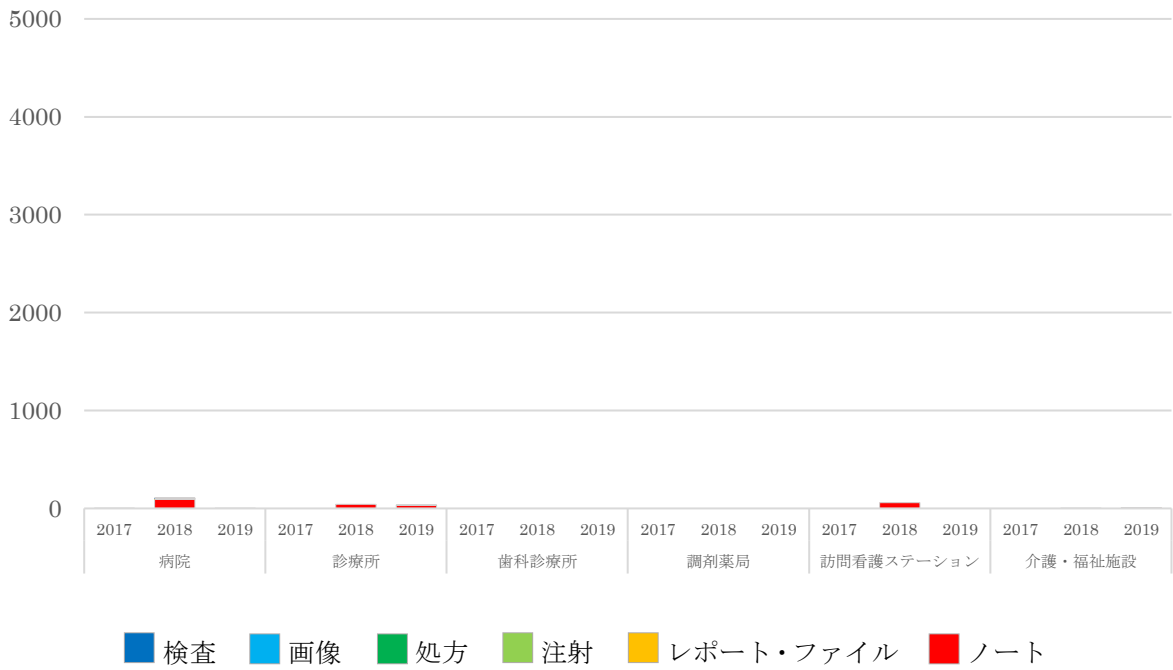


図 7 調剤薬局の参照先・参照項目

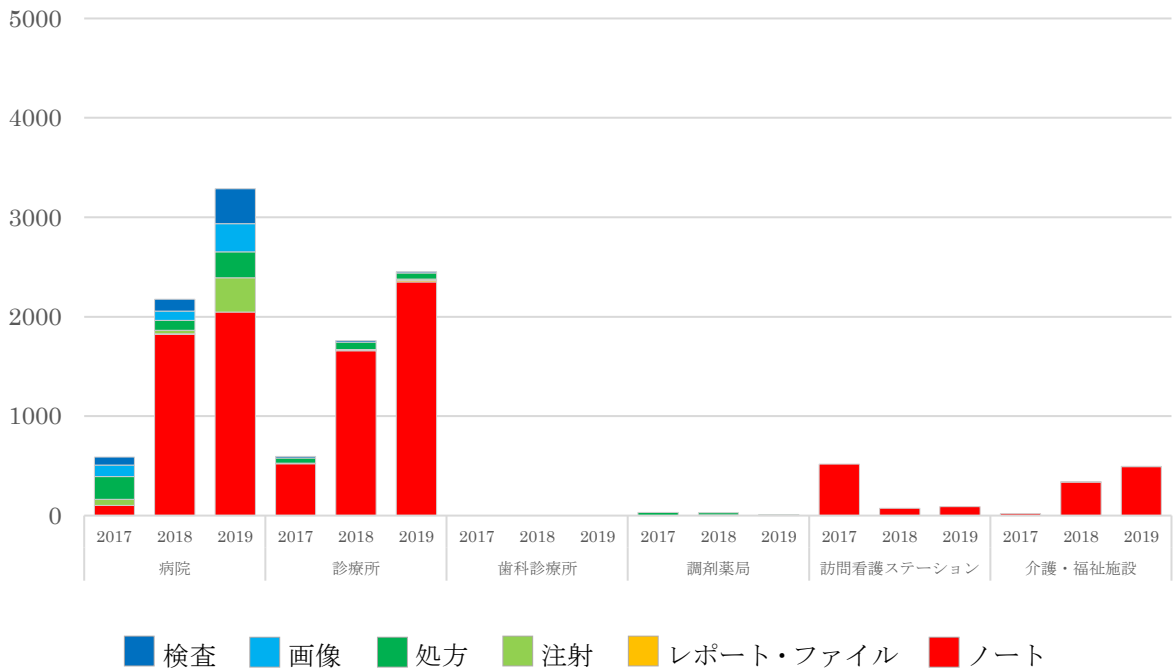


図 8 訪問看護ステーションの参照先・参照項目

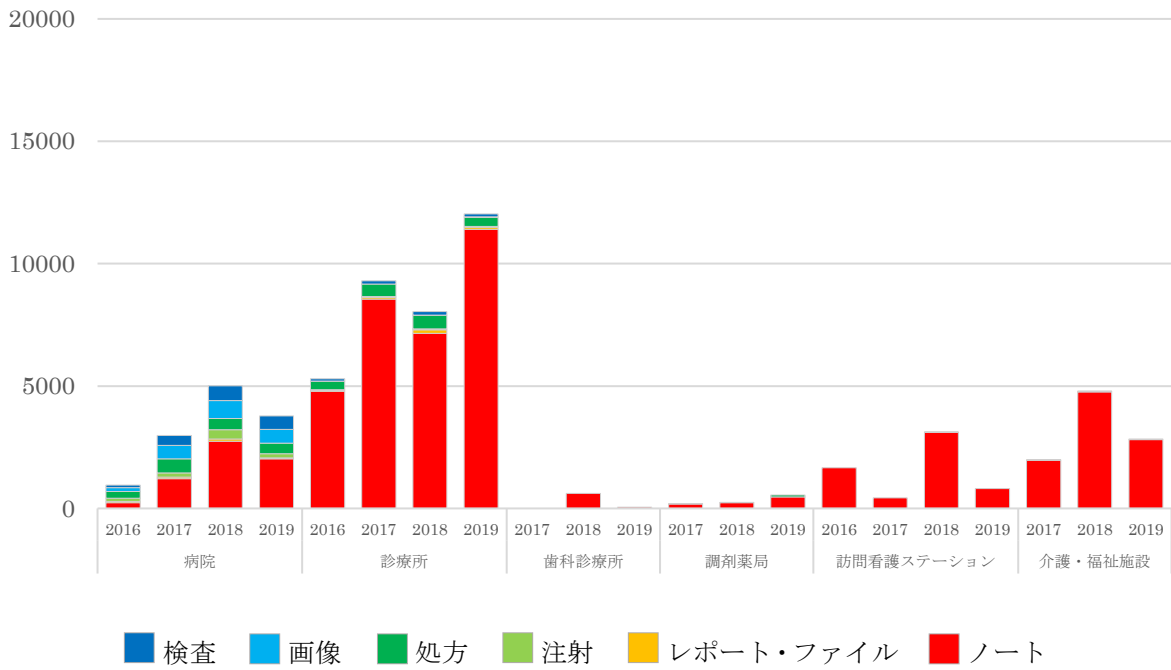
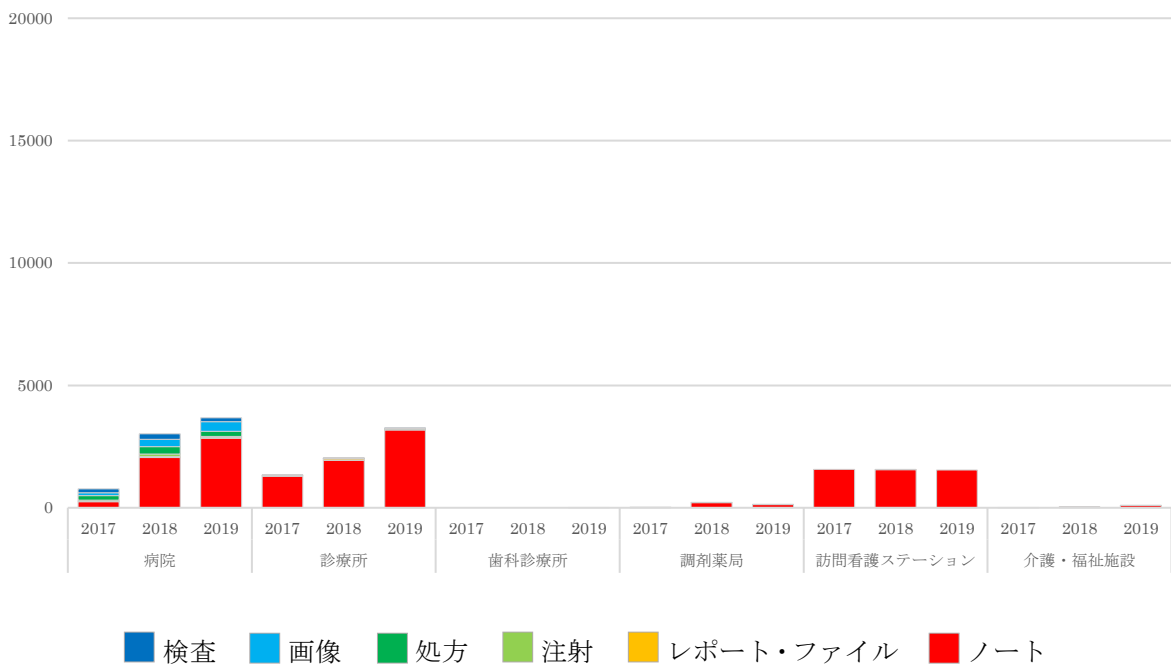


図 9 介護・福祉施設の参照先・参照項目



## アクセスログの解析結果

### (1) アクセス数の年次推移

2014年に開催された「飯田下伊那診療情報連携システム[ism-Link] ID-Link 勉強会」を契機にアクセス数は増加傾向であるが、2017年以降は横ばいとなっている。

施設別にみると、診療所での利用は2015年以降ほぼ一定であるが、訪問看護ステーション、介護・福祉施設での利用が増加傾向である（図1）。

2017年に南信州在宅医療・介護連携推進協議会において多職種の参加が承認されことにより、それまではアクセスの60%以上が医師であったが、2018年以降は医師以外の職種の利用が60%となっている（図2）。

項目別ではノートの参照が60～70%を占めているが、医療情報（検査・画像・処方等）の参照も徐々に増えてきている（図3）。

### (2) 施設別のアクセス状況

施設別アクセス数で2018年以降に病院のアクセス数が減少しているが、これは診療所と訪問看護ステーションのノートの参照の減少が主因である。一方、病病間の医療情報の参照は、画像参照を中心に増加傾向にある（図4）。

診療所では主に病院の医療情報の参照に利用され、訪問看護ステーションとのコミュニケーションツールとしても使われている（図5）。

歯科診療所ではism-Linkはほとんど利用されていない（図6）。

調剤薬局では病院の医療情報とノート、診療所のノートが参照されるようになってきた（図7）。

訪問看護ステーションは診療所との連携での利用が主体である。また、介護・福祉施設のノートも参照されるようになっており、ケアマネージャーとのコミュニケーションツールとしても利用されるようになっている（図8）。

介護・福祉施設でのism-Linkの利用も増えてきている（職種別の解析ではケアマネージャーの利用が90%）（図9）。

## ism-Link の活用状況

①病病間の医療情報の共有・診療所による病院の医療情報の参照

②診療所・訪問看護ステーション・ケアマネージャーによる在宅医療におけるコミュニケーションツールとしての活用

①は2011年以降、②は2014年以降いずれも徐々に増えている。2018年以降、総アクセス件数が減少しているのは、特に病院の医師の在宅医療への関与が減っているためと推測される。